



座光寺風景

みんなで踊ろう座光寺音頭

7月22日(土) 今年で第8回になる「座光寺夏祭り」が開催されました。恒例の「七夕行列」「宝投げ」初の試みの「じゃんけん大会」など、子どもたちも大勢参加して盛り上がったお祭りでした。夏のいい思い出になりました。(4面に写真があります)

七月二十二日に行われた座光寺夏祭りに女子高のチアリーディングの一員として演技させていただきました。

始まる前は皆さんに楽しんで頂けるか心配でしたが、本番ではたくさんの方が見に来てくださいました。その中でも、私の住んでいる上野地区の方が名前を呼んでくださり嬉しかったです。

初めて私たちのチアを見てくださった方もたくさんいて、歓声などで盛り上げて頂き楽しく演

技をすることができました。その後の座光寺音頭にも参加させていただき地域の方々と一緒に踊ることができ、良かったです。

今回の夏祭りに参加させていただき、座光寺の方々の温かさを改めて感じました。地元を暮らす一人として、これからも座光寺を盛り上げていきたいです。

私達はこの八月に全国大会に出場する事ができました。来年は今年以上の演技になるよう頑張るので、ぜひ来年も呼んでください。



座光寺音頭を踊る保育園児が小さい体で一生懸命に踊る姿は

初めて扱うイベントで戸惑う日々の中、実行委員長より「子ども達に楽しんでもらい心に残るお祭りにし、県外に出て帰って来なくなる様なお祭りにしたい」と祭りの目的を伝えられ、それから奮闘の毎日でした。

アトラクションの参加を依頼する中で小学生と中学生は、昨年の先輩の姿を思い浮かべ、お祭りで演奏を披露したいと言っているとお聞きました。

可愛く、踊りに花を添えてくれたのが女子高の生徒さん達です。チアリーディングのお揃いのコスチュームで踊る姿に、見惚れてしまいました。

お楽しみの宝投げは圧巻で、大勢の子どもさんが、まだかまだかと待ち構えて居る姿は獲物を狙う豹の様でした。夜空を彩る花火は綺麗で、あつという間に花火も祭りも終わりました。

子供達の楽しい思い出作りの一助になれば幸いです。



平成29年度 市政懇談会

六月二十一日（水）午後七時から、公民館大会議室において約百三十名の参加のもと市政懇談会が開催されました。

はじめに全員で「座光寺の歌」を歌い開会しました。

第一部として、牧野市長から「市政経営の方向くいいだ未来デザイン（二〇二八）」について、その考え方と取り組みについての説明がありました。

第二部として、地域課題及びフリースペースが行われましたが、それに先立ち子どもたちが描く十二年後の座光寺と題して、高陵中学校一年湯澤瑠介さんから「都会の人が自然豊かな座光寺にリニアで楽に来られるようになる田舎生活体験」の提案がありました。続いて、高陵中学校一年棚田実利さんから「リニアが開通しても、自然がいっぱいで、生き物がいっぱい、優しい地域の人がいっぱいで、農業が盛んな座光寺でいてほしい」との発表がありました。

で活躍してほしい。」との感想が述べられました。

続いて質疑応答が行われました。

要望 ①桜まつりの際、自治振興センター及び公民館の駐車場を借用しているが狭い為、広くしてもらいたい。また、鳥居から麻績の舞台校までの道が非常に狭い。改良をお願いしたい。

②舞台校舎の利活用のため、音響設備の設置を含め一緒に検討をお願いしたい。

（麻績の里振興委員会）

市長 ①駐車場整備は、長期的な視点が必要。リニアが開通し多くの観光客が来るようになった時、バスによるピストン送迎等のマイカー規制を検討する必要がある。道路改良については、地区からの要望に対して徐々に対応していきたい。

②舞台校舎は県宝であり、文化財保護の観点から改修工事には制約がある。音響設備の必要性は理解する。どうするか今後相談させていた。

質問 リニア時代を見据え、また、知の拠点の活用を地域全体で考え、定住・移住に繋げてい

きたい。知の拠点等の施設を活用して企業誘致や、そこで働く人及びU・イーターン者のために住宅の斡旋などについて市はどのように考えているのかお聞きしたい。（自治会産業建設部）

市長 今年度から新たに行う「田舎へ還ろう戦略」をどう進めていくのかは、市政懇の大きなテーマである。働く場の創出のため企業誘致は大切であり、知の拠点では全国的な研究機関や企業の誘致に活用できないか検討中である。人材の流入も進めていきたい。

知の拠点は、気軽に立ち寄れる施設として地域との「共創の場」を目指している。特徴ある取組みがある地域として広く周知し企業進出、働く場の確保及び若者の定住につなげていければと考えている。今までは、技術職の人材を確保することを目的とした住宅の建設・斡旋をした経験もあり、移住者への住宅斡旋については、空き家の活用を含め対応していく。

要望 昨年度、地域営農支援事業補助金を活用し、自分たちで栽培したりんごを使って「シードル」の試作を行った。今後、農業所得向上、地元の農業振興につなげるよう本年度以降は商品化を目指しているので協力を

お願いしたい。飯田産の地酒及び果実飲料で乾杯する条例の認知度の向上と地産地消の奨励・周知をお願いしたい。

（JAみなみ信州青年部果樹班）

市長 シードルを地域のブランドにしていこうという取組みに敬意を表すると共に、市としても出来る限りの支援をしていきたい。乾杯条例は浸透されていない面もある。まずは座光寺から地産地消の習慣を少しずつ広めてもらうようにお願いする。

質問 ①座光寺地域としては、かねてより渋谷区との緑の環交流事業を行ってきたが、どちらかというとこちらからの一方通行になりがちであり、本来目指してきた「環」という部分で活動の方向性について検討したいと考える。飯田市として今後の都市圏との交流事業の方向性について伺いたい。

②リニア開通を見据え、今後中京圏との交流が必要になってくると思うが、中京圏のふるさと会の設立、交流のきっかけを提供したい。（自治会総務文教部）

市長 ①今後も引き続き両地区が関係を持つことができる環境を行政としても考えていきたい。

②リニア時代を見据える中で、今後ますます都市部の住民をターゲットにした市民レベルでの双



方向の交流が拡大していくことが望まれる。品川区との交流では物産展に農家や高校生の参加、また、夏休みに親子ツアーで互いの地区を行き来する交流を行っている。

中京圏との交流は産業界の皆さんと年一回懇談会を設けてネットワークづくりを行っている。中京圏でのふるさと会設立の際にはサポートさせていただく。

要望 リニアの代替地のことなど、今後もより丁寧な説明と速やかな情報提供をお願いしたい。また、工事が始まれば通学路等の安全が確保されるような配慮をお願いしたい。

（共和地区住民）

市長 地権者の皆さんだけでなく地区住民の方にも説明をという声をいただき、説明会等を開催してきた。今後も丁寧な説明、速やかな情報発信に努めていく。

（文責 自治会総務文教部）

9月1日からごみの分別方法が変わりました

9月1日から燃やすごみの焼却場が桐林クリーンセンターから稲葉クリーンセンター（下久堅）へ移行しました。これに伴い、ごみの分別方法が変わっていますので以下にご留意いただき、ごみを分別して出していただくようお願いいたします。

●家庭から排出されるごみの分別内容の変更

プラスチック製品、皮革製品、ビニール製品、ゴム製品（自動車や二輪車のタイヤを除く）、汚れが取れないプラ資源ごみ、汚れが取れないペットボトル、加工したペットボトル、発泡スチロール（プラマークなし）が、燃やすごみとなります。

以前の
埋め立てごみから
燃やすごみ
になります。

例えばこういったものが「燃やすごみ」になります。



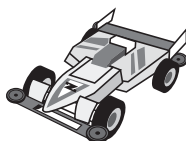
●カッパ



●ホース



●衣装ケース



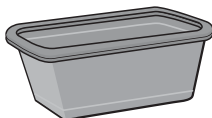
●おもちゃ
(プラ製)



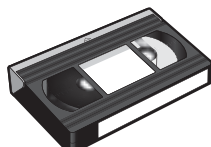
●CD・DVD



●ペン



●プランター
(プラ製)



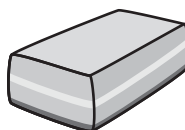
●ビデオテープ



●かばん



●靴



●スポンジ



●乾燥剤

など



燃やすごみ（大）

- 袋の色「黄色（半透明）」
- 文字の色「黒」

以前の
指定ごみ袋も、
引き続き使用
することができます。



●お問い合わせ 飯田市環境課 ☎0265-22-4511（内線5464）

**道路、水路、補修箇所
要望地区廻りを終えて**

今年度各地区から要望のありました補修箇所は、新規と継続分を合わせ九十八件でした。

五月二十五日、自治会三役・産業建設部員・自治振興センター所長が、該当する各地区長及び自治委員の立会いと説明による地区廻りを実施し、



意見発表してくれた中学生



七月十一日、社会を明るくする運動地区講演会が開催されました。

この運動は、保護司会などを中心に犯罪の防止と犯罪者の矯正・更生保護についての理解を深める事を目的とした

社会を明るくする運動地区講演会

活動で、本年度は座光寺公民館が会場となりました。

当日は百名を超える参加者が集まり、高陵中学校生徒徒による作文発表と、座光寺公民館長塩澤哲夫さんの講演がありました。



塩澤館長は公民館活動を通じ、大人は子どもの成長のために、「子どもに任せる」こと、「見守る」ことが必要で、その中で子どもの自己肯定感が育まれ、成長するとお話され、人と関わる事の重要性を深く認識する講演会となりました。

（広報篠田）

評価会議の結果全件を市へ要望して終了しました。

予算等の関係から、年度内の全件改良・補修は厳しいと思われるので、来年度以降も継続した要望を行い、今より少しでも住み良い地域にしていきたいと考えています。

関係者皆様方のご協力に感謝申し上げます。

（産業建設部長 ミツ井誠三）

第8回 座光寺夏祭り

平成29年
7月22日(土)





平成29年 8月5日(土) 座光寺公民館

IIDA PUPPET FESTA
いいだ人形劇フェスタ
2017

座光寺人形劇まつり



平成二十九年 春季スポーツ大会

総合優勝の美酒に酔う

清水地区長 北村 稔

去る、六月四日(日)春季スポーツ大会が開催され、私たち恒川・清水地区は予期せぬ？ 総合優勝の栄冠を手に入らせていただきました。

ソフトボールは決勝戦に駒を進める常連ですが、二年連続で高岡チームの高い壁に跳ね返されてきました。このライバルの一回戦敗退に加え、三試合連投のエースがフォアボールゼロの素晴らしい投球内容でした。

「三連覇!!」の、ふらばーるバレー。こちらは毎年、地道にチーム練習を重ねていることに加え、新たにチームに加わったバレーボール経験者の



「戦力補強」が最大のポイント。そしてペタンクは、全国レベルの大会にも参加するキャプテ



見事総合優勝の恒川・清水地区の皆さん

ンと「一勝ぐらいしない」と夜の生ビールが美味しくない」という親睦第一のメンバーが今年も「他競技の」足を引っ張らなかつた」というところでしょうか。

ともあれ、慰労会が開催された地区内の「夢萬亭」には、優勝旗と賞状・賞金がテーブル狭しと並べられ、地区役員の緊急提案で「本日の負担金は半額のワンコイン!」と告げられると参加者のボルテージは最高潮に達し、勝利の美酒に酔う楽しい時間を過ごすことが出来ました。

H29春季スポーツ大会 結果一覧

	総 合	ソフト ボール	ワンバウンド ふらばー バレー	ペタンク
優 勝	恒川清水	恒川清水	恒川清水	市場通り
準優勝	市場通り	大 堤	唐 沢	北市場
3 位	大 堤	共 和 市場通り	宮の前 大 堤	中・中・欠 高 岡

高陵地区体力測定会
あなたの体力は何歳?

スポーツ推進委員 岩谷 剛徳

今年も六月十八日(日)に高陵地区体力測定会が座光寺小学校で開催されました。

体力測定会とは、文部科学省の新体力テスト実施要項に基づいて実施することにより、「体力や運動能力」を知るための指標です。また全国平均と比較することができ、これにより、自分の体力が全国と比べてどうか、を確認することが出来ます。

この体力測定会は、幅広い世代で出来る簡単なイベントとして毎年実施しています。今

ホタルを見る会

六月十七日にホタルを見る会が開催されました。



回も小さな子供さんから年配の方まで、幅広い方に参加して頂き、自分の体力がどのくらいなのかを確認しました。また測定結果をいかして、生活習慣の改善や運動習慣の改善のきっかけにして頂けたらと思います。



透明コップの中のホタルを観察

天候にも恵まれ、五十名を超える大勢の子ども達の参加があり、学習の会場となった中河原会所は熱気に包まれていました。

まず、ホタルの種類や生態についてプロジェクトに映し出された写真を見て学習。「ゲンジボタル」と「ハイケボタル」の見分け方などを知ることができました。

その後、暗くなつてから白山下に移動し、実際にホタルを観察しました。子ども達は透明コップにホタルを入れ、じっくりと観察しながら、歓声を上げていました。観察後、透明コップから開放されたホタルは光りながら草むらに帰っていきました。

貴重な天然のホタルに出会うことができました。ホタルの住める環境を守る必要性を再確認しました。(広報原田)

水辺の広場で遊ぼう

健全育成部事業

水辺の広場で

座光寺小五年 塩澤 愛渚

「水辺の広場で遊ぼう」に参加させていただき、なかなかできない体験をいくつもさせていただきました。

川遊びでは浮き輪を使い、上から下まで流れて水の中を見たり、川の中に住んでいる生き物をつかまえたりしました。その後勉強会をしてくださり、みんながとった魚や生き物を見せ合い、見たことのない魚たちを見ることができました。

また、ニジマスをつかみどりして、自分でさばいて焼いて食べました。魚つかみは、



学習会の様子

なかなかつかまらないし、ぬるぬるしているしで、とっても苦手でむずかしかったです。しかし、食べてみるとがんばったかいがあり、おいしくいただきました。

たくさん遊べて、めずらしい体験もできて、参加して良かったなと思いました。

親子で参加して

共和地区 塚平 琴江

三年生の息子と、初めて参加させていただきました。

息子は到着するなり川へ入って遊びだし、大勢のお友達と一緒にザリガニを捕ったり、川下りを楽しんだり、はしゃいでいました。先生から近辺に住む魚や虫たちのことを教えてもらい、とても勉強になったようです。捕まえたザリガニはしばらく家で飼い、脱皮をするところを見ることができました。

いけすでは、マスのつかみ取りをすることができました。魚が苦手な息子ですが、大喜びで捕まえてきて自分でさばき、串に刺して焼いた後、食べ



美味しく焼けるかな？

ることができました。

おいしいカレーや流しそうめんまで用意していただき、外で食べる食事はいつもと違ってとてもおいしく、私も息子も大満足させていただきました。

公民館、スタッフの皆様には、このような催しを企画・運営していただき、本当にありがとうございました。子どもたちもこの広場で遊んだことは、一生忘れられない体験となったことと思います。昔と違って外で過ごす機会が減りつつある中、自然を体感しながら学び、子どもたちの元気な声が響き、楽しむことができる場所があることはとてもありがたいことだと思えます。いつまでもこの自然が、この広場が保たれていくことを願っております。

クラブサークル紹介

座光寺ジュニア

バレーボールクラブ

飯田ゼットキッズ

「飯田ゼットキッズ」は、座光寺のジュニアバレーボールクラブです。

現在五名の指導者の元、男子十三名、女子二十一名の計三十四名の小学生が毎週木・金曜日の夕方五時半から七時半まで、日曜日の朝八時半から十二時までの週三回座光寺小学校で活動しています。

昨年の夏頃からは、県内・飯田下伊那地区の練習試合や大会にも参加するようになり、活動の幅も広がっています。

クラブでは普段の練習から心がけていることがあります。

- ①大きな声であいさつや返事をしよう。
- ②感謝の気持ちをいつも持つとう。(指導して下さるコーチに、練習を手伝ってくれたら、大会で応援してくれる家族や仲間、練習をさせてもらう施設や用具に。)
- ③目標を持ち自分から進んで



大勢の参加をまっています!!

繰り返し練習しよう。
平成二十八年四月、チームが発足したと同時にバレーを始めた子供も多く、最初の頃は大きな声を出すこともはるかしくて、なかなか出来ずにいました。練習と試合を重ねるごとに自然と大きな声も出るようになり、今では一年生から六年生まで元気いっぱいバレーに取り組んでいます。

また、親子でソフトバレーボールをやったり、焼き肉やクリスマス会などのお楽しみ会もあります。

子供達にバレーボールを通じて、体力・忍耐力・協調性が身に付くように、指導者はじめ、保護者も益々張り切っているそんなクラブです。

座光寺の自然 シリーズ9 アオマツムシの侵入と鳴き声

夏の終わりに初秋にかけて、暗くなると樹上から鋭い声で「リーッ リーッ」と鳴き声が聞こえます。これはアオマツムシ（コオロギ科）の鳴き声で、飯田市の丘の上ではこの声がかかなり多く、騒音というほどです。あまりにうるさいので、日本の秋の夜を彩るコオロギやスズムシは楽しめなくなつたと言われています。

座光寺では下段の153号線付近では八月二十日頃に鳴き始めますが、上段の宮崎では九月に入ってから鳴き始めます。図のデータは二〇〇四年の記録ですが、その後の観察でも毎年同じようなパターンを示しています。

アオマツムシの市街地の高密度地区からの分散（2004年）

9月2日 初鳴き B密度
9月2日 初鳴き D密度
8月24日 初鳴き D密度
8月19日 初鳴き E密度

アオマツムシの座光寺での鳴き始めた時期（2004年）



アオマツムシの雌雄；右上の翅を持ち上げているのが雄。体は扁平で葉っぱに密着すると見つけることは難しい。

帰化昆虫

実はアオマツムシは中国杭州原産の帰化昆虫です。日本で初めて記録されたのは一八八八年、東京赤坂です。最初は東京近郊だけにいましたが、戦後全国に広がり、名古屋で

は一九五〇年に記録されました。各地の初観察された年もかなりわかっていきます。長野県では一九八〇年、南木曾駅前が初です。飯田市では一九八八年、伝馬町でした。このような記録があるのは目立つ声であること、積極的な調査が行われたからです。



▶長野県でのアオマツムシ初認年
伊那市、駒ヶ根市は定着しなかった

なぜ侵入した？

アオマツムシがこのように侵入したのは樹上に棲むコウロギ類が日本にいなかったためと考えられています。このような生態的な位置のことをニッチといいますが、ここに空白があると外部から侵入しやすいのです。

どのように広がる？

アオマツムシは卵をサクラやカキなどの一年枝の中に産卵管で産み込みます。これら

の樹は園芸種が多いので人が運び、侵入と拡散につながつたとみられています。また中央道ではパーキングエリアで早くから記録されました。伊那市の小黒川PAでは一九八四年に記録されましたし、その他にも早い段階でのいくつかの記録があります。どうやら幼虫が車で運ばれることもあったようです。

伊那谷を北上中

長野県内では長野市、松本市ともに市内では大発生していますが、面白いことに伊那谷では伊那市、駒ヶ根市にはいません。ただ伊那市、駒ヶ根市ともに1〜2個体が鳴くことがありました。いずれも単年度の発生だけで、翌年には鳴きませんでした。ゲリラ的に侵入しても子孫を残せないことが多いようです。

私は毎年、辰野から飯田の間を、アオマツムシがどこまで北上しているかを調べています。昨年の調査では中川村坂戸橋の北1kmほどまで鳴いていました。国道153号線のそれ以南は連続して鳴いていて、アオマツムシの声に包まれます。

（伊那谷自然友の会 小林正明）

編集後記

広報委員として取材する中で、様々な行事の舞台裏を覗かせていただく事があります。実は、そこには素敵な発見が多くあります。多くの中のとつた一例ですが、ご紹介いたします。

それは、先日の座光寺夏祭りの折、飯田女子高校のチアリーダーの演技はもちろんですが、彼女たちの舞台裏での行動に驚きました。

関係者に丁寧に挨拶し、出番前には整然と整列、そして舞台上に上がる際に脱いだ靴はきれいに整えられているのです。

若くてかわいいだけじゃない、人間として美しくまぶしい彼女達を目の当たりにし、なんだかとても素敵な気持ちになると同時に、四十歳を過ぎたおじさんは大いに反省するのでした。

（広報部S）

